



AI の時代に、子どもたちに身につけてほしい力

最近、「生成 AI」という言葉を耳にする機会がずいぶん増えました。質問をすると文章を考えてくれたり、外国語に翻訳してくれたり、文章や画像をつくってくれたりします。大人の仕事だけでなく、これからは子どもたちの学習にも、AI が身近な存在になっていくことが予想されます。実際、大阪市においても、今年度、生成 AI を授業や学校の仕事に活用する「生成 AI パイロット校」の取組が進められています。子どもたち自身が生成 AI を活用する授業の実践も予定されています。



では、AI がいろいろなことをしてくれるようになったとき、子どもたちには、どのような力が必要なのでしょう。

私は、「自分で考える力」こそ、これからますます大切になると考えています。例えば、AI に「大阪のよいところを教えて」と聞けば、たくさんの答えが返ってくるでしょう。しかし、その答えを見て、「本当にそうなのかな」「なぜそう言えるのかな」「自分が住んでいる地域はどうだろう」と考えるのは、子ども自身です。

AI は、答えを出してくれるかもしれませんが、「何を知りたいのか」「何を問題にするのか」「どの答えを選ぶのか」「その答えをもとに、どう行動するのか」を決めるのは、人間です。だからこそ、これからの学校教育では、単にたくさんの知識を覚えるだけではなく、自分で問いをもち、自分で考え、友達と話し合い、確かめ、そして判断するという学びが、これまで以上に重要になるのではないのでしょうか。

■「すぐに答えを出さない」という学び

今の子どもたちは、分からないことがあれば、すぐに調べることができます。これは、とても便利なことです。しかし、便利になったからこそ、「すぐに答えを見つける」のではなく、時には「すぐに答えを出さない」ことも大切だと思います。「どうしてだろう?」「本当にそうなのかな?」「別の考え方はないかな?」「友達はどのように考えているのだろうか?」こうした「立ち止まって考える時間」が、子どもたちの思考を深めます。

学校では、友達と意見が違ふことがあります。自分とは違う考えを聞いて、「なるほど、そういう見方もあるのか」と気付くことがあります。反対に、「やっぱり自分はこう思う」と、自分の考えをさらに深めることもあります。こうした学びは、AI だけでは生み出すことのできないものです。人と人が直接出会い、話し、悩み、考え、時には意見をぶつけながら、一緒によりよい答えを探していく。そこに学校で学ぶ大きな価値があります。（※裏面に続く）



(※表面より)

■「答え」よりも「問い」を大切に

これからの社会では、AI によって、今まで以上に多くのことができるようになるでしょう。だからこそ、学校として大切にしたいのは、子どもたちが「正しい答えを早く出せる人」になることだけではありません。

「自分はどう思うのか」「なぜそう思うのか」

「もっとよくするにはどうしたらいいのか」

そんな問いを、自分自身で生み出せる人になってほしいと思っています。そして、自分の考えだけに閉じこもるのではなく、友達や先生、家族、地域の方など、さまざまな人とつながりながら考えてほしいと思います。AI の時代だからこそ、人と人とのつながりが、これまで以上に大切になるのかもしれない。



■ご家庭でも「答え」ではなく「問い」を

ご家庭でも、ぜひ子どもたちとの会話の中で、「どうしてだと思う?」「あなたは思う?」と問いかけてみてください。例えば、ニュースを見たときに、「どうしてこんなことが起きたんだろう?」「自分だったらどうする?」「ほかの人はどう考えるかな?」と、一緒に考えてみる。答えがすぐに出なくても構いません。むしろ、「分からないね」と一緒に考える時間こそ、大切なのだと思います。

子どもたちが生きていくこれからの社会は、今以上に変化の大きな社会になるでしょう。AIをはじめ、新しい技術は、私たちの生活を大きく変えていくはずです。だからこそ野田小学校では、変化する社会にただ対応するだけでなく、「自分で考え、自分で学び、周りの人や地域とつながりながら、自分たちの未来をつくっていく子ども」を育てていきたいと考えています。

未来をつくるのは、AIではありません。AIをはじめとする新しい技術を生かしながら、「自分はどうしたいのか」「どんな社会にしたいのか」を考え、行動する一人一人の人間です。その力を育てる場所として、これからも学校での学びを大切にしていきたいと思っています。

のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活のようすは、本校ホームページでも紹介しています。
随時更新していますので、ぜひご覧ください。

【避難訓練（地震・津波）】9月10日（木）

地震と津波を想定した避難訓練を行いました。訓練の前には、各学級で、地震や津波が起こったときに、どのように行動すればよいのかを学び、自分の命を守るために大切なことを確認し、訓練に臨みました。地震の訓練放送が入ると、子どもたちはすばやく机の下に入り、頭を守って身を低くしました。揺れがおさまると、担任の指示を聞きながら、落ち着いて運動場へ避難しました。運動場に全員が集集合した後、津波が来るといふ知らせを受け、今度は校舎の3階以上へ避難しました。子どもたちは、友達と声をかけ合いながら、落ち着いて階段を上っていきました。訓練の1つ1つの場面で、子どもたちは真剣な表情で取り組んでいました。

地震や津波は、いつ起こるか分かりません。いざというときに自分の命を守ることができるよう、今日の訓練で学んだことを大切にしていきたいと思っています。



※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。